

職業実践専門課程の基本情報について

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|-------------------------|--|--|---|-----|-----|-----------------|------|------|-----|-------------|---|-----|-----|------------------|
| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | |
| 北海道芸術デザイン専門学校 | 昭和51年4月1日 | 根上 和也 | 〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777 | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人美術学園 | 昭和62年12月4日 | 増田涼平 | 〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777 | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | |
| 文化・教養 | 文化教養専門課程 | 環境デザイン学科 (フワーデザイン専攻) | 平成7年1月23日 文部科学省告示第7号 | — | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 環境デザイン学科(フワーデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・国家資格を中心に各種の資格取得を推進し、社会の発展に寄与する実践的な能力・態度を育てる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し実務的な職業教育を施す。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | |
| | 昼間 | 2400時間 | 270時間 | 2130時間 | 0時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | |
| 2年 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | |
| 100人 | 15人 | 0人 | 1人 | 12人 | 13人 | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月26日 ■後期:9月27日～3月31日 | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:7月21日～8月17日 ■冬季:12月18日～1月12日 ■前期末:9月12日～9月26日 ■学年末:3月3日～3月31日 | 卒業・進級条件 | | 教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の課程の修了又は卒業を認定する。卒業必要授業数 2400単位時間 | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携 | 課外活動 | | ■課外活動の種類 北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部体育事業の参加、学園祭等の実行委員会等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 生花販売、花卉市場、製造、造園業 | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | | 資格・検定名 | | | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | |
| | ■就職指導内容 一年次より就職ガイダンスを開催。二年時には就職課、担任を含めた三者面談を複数回行う。 ■卒業者数 15 人 ■就職希望者数 12 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 80 % ■その他 ・進学者数: 1人 ・関連分野へのアルバイト: 2人 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) | | | | <table border="1"> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>ADEC色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>ブックデザインコンソーシアム検定</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>13人</td> </tr> </table> | | | ビジネス能力検定ジョブパス3級 | ③ | 15人 | 13人 | ADEC色彩士検定3級 | ③ | 15人 | 15人 | ブックデザインコンソーシアム検定 |
| ビジネス能力検定ジョブパス3級 | ③ | 15人 | 13人 | | | | | | | | | | | | | |
| ADEC色彩士検定3級 | ③ | 15人 | 15人 | | | | | | | | | | | | | |
| ブックデザインコンソーシアム検定 | ③ | 14人 | 13人 | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 1 名 令和2年4月1日時点において、在学者23名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者22名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等 | | ■中退率 4.3 % | | ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 パブリック奨学金制度、スカシップ奨学金制度、交換留学奨学金制度等 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 | | ■自由記述欄 ・池坊学校華道インターネット花展 専門学校への部入選 ・フールエバーウェブコンテスト 入選 | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.bisen-g.ac.jp/ | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「1年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

| | | | |
|--|--------------------------|------------------------|----|
| 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係 | | | |
| (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 | | | |
| 本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。 | | | |
| (2)教育課程編成委員会等の位置付け | | | |
| 年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。 ※別紙1参照 | | | |
| (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 | | | |
| 令和3年7月31日現在 | | | |
| 名 前 | 所 属 | 任期 | 種別 |
| 佐野 公康 | 株式会社デービス 代表取締役 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | ③ |
| 西村 昌実 | 北海道イラストレーターズクラブα 副会長 | 同上 | ① |
| 堀川 敦史 | (株)サイクロンゼロ 開発部マネージャー | 同上 | ③ |
| 大内 利章 | (株)自然農園 代表取締役社長 | 同上 | ③ |
| 内村 喜憲 | 北海道インテリアプランナー協会 会長 | 同上 | ① |
| 薄木 健友 | (株)花佳 代表取締役 | 同上 | ③ |
| 赤坂 真一郎 | (株)アカサカシンイチロウアトリエ 代表取締役 | 同上 | ③ |
| 鈴木 理 | (株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取締役 | 同上 | ③ |
| 根上 和也 | 北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長) | 同上 | |
| 高橋 美絵 | 同 教務部長 | 同上 | |
| 飯塚 哉子 | 同 学務部長・建築デザイン学科長 | 同上 | |
| 高畑 文一 | 同 産業デザイン学科長 | 同上 | |
| 田中 政史 | 同 マルチメディアデザイン学科長 | 同上 | |
| 桂 充子 | 同 環境デザイン学科長 | 同上 | |
| 稲葉 未紗 | 就職課主任 | 同上 | |
| ※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員 | | | |
| (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 | | | |
| 開催頻度:年2回、開催時期:8月下旬および2月上旬 (開催日時(実績)) 第1回 令和2年8月25日 16:00～18:00 第2回 令和3年2月5日 15:00～17:00 | | | |
| (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 | | | |
| ・第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。 ・学科全体では、海外との渡航でのやり取りが難しくなり、納期が伸びたりとじわじわと影響が広がっている。就職も即戦力を重視しがちになっている。花業界では現在観葉植物の需要が増え、グリーン装飾の知識を養える授業などがあると良いという指摘があったため、学外活動等で園芸分野の見学や体験の機会を作っていく。 | | | |
| 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係 | | | |
| (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 | | | |
| 本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。 | | | |
| (2)実習・演習等における企業等との連携内容 | | | |
| ・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。 ・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。 ・学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。 | | | |

| (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。 | | |
|---|---|--------------------|
| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
| コーディネートⅠ | 生花や植物の美を制作者の視点で抽出し、組み合わせることによって、制作者独自の美の世界を創出する「フラワーコーディネート」の基礎編。様々な花材、様々なマテリアルの使い方の可能性を知り、自ら発想する姿勢を養う。 | 有限会社 花保 |
| 植物学 | 植物に関する諸知識を、より実践に結びつけるため、育つ環境とのかかわりや植物の根の成長に必要な土壌や菌とのかかわり、具体的に植物が育てられる課程、植物の形はどうやって決まるか、さらに植物の名前はどうか付けられてきたか、植物と文化について学ぶ。 | 有限会社 アークス |
| クリエイティブワークⅠ | 生花や植物の美を制作者の視点で抽出し、組み合わせることによって、制作者独自の美の世界を創出する「フラワーコーディネート」の応用発展編。生花店での実際を想定し、条件設定に応じたデザインや花材選定を即座に行う力をつけることを目指す。 | 株式会社AKIRA NAKAMURA |
| ディスプレイ演習Ⅰ | 空間装飾の役割を理解し、共通テーマやコンセプトに沿ってデザインを起案し、空間を生かす作品を制作する。設定されたコンセプト、共通テーマを意識して、個人でのデザイン、チームでのデザインと作品制作を行う。 | 有限会社 花季 |
| フラワービジネス | フラワービジネスに関する実践的知識と技術を身につける。生花業界を志すにあたり必要となる、生花の流通について、業界諸団体について、生花の取り扱い知識を講義により学ぶ。また札幌花き地方卸売市場を見学し、セリや仕入れの実際を学ぶ。葬儀のスタンド花の制作を一人1基制作し、制作の要点を学ぶ。 | 有限会社 フローラル花づくし |
| 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 | | |
| (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。 ・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。 ・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。 ・授業および学生に対する指導力向上のため、各種職能団体が運営する指導員研修への参加や、所定の年度に大学等で実施される教員免許更新講習等を受講する機会を確保する。 | | |
| (2) 研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 令和2年9月28日 『"ダリアの種類とその特徴"講義と実践 主催:札幌ダリア会 (対象:フラワーデザイン専攻学生/内容:フラワー実務) ②指導力の修得・向上のための研修等 令和2年11月21日 「New Education Expo 2020オンライン-まなぶとはたらくをつなぐこと～大学におけるキャリア教育がいま必要となる理由～」 東京 主催:New Education Expo実行委員会(対象:文化教養分野関係者・学生/内容:キャリア教育全般) | | |
| (3) 研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 令和3年9月予定「フラワーデザイン講習会2021」主催:札幌生花商業協同組合 北海道生花商業協同組合 (対象:学生、一般)/内容:フラワー実務 令和3年9月予定「池坊巡回講座2021」 主催:池坊 (対象:学生、一般)/内容:フラワー実務 ②指導力の修得・向上のための研修等 令和3年12月(予定) 『令和3年度文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会』 主催:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会 対象:(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会会員校及びその他の教職員 | | |

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する企業等との信頼関係を深めることを基本方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|-------------------|----------------------------------|
| (1) 教育理念・目標・人材育成像 | 学校の教育理念・目的・人材育成像などは明確になっているか |
| (2) 学校運営 | 教育活動に関する情報公開がなされているか |
| (3) 教育活動 | 成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか |
| (4) 学修成果 | 就職率の向上が図られているか |
| (5) 学生支援 | 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか |
| (6) 教育環境 | 実習施設、インターンシップの場等、十分な教育体制を整備しているか |
| (7) 学生の受入れ募集 | 学生募集活動は適正に行われているか |
| (8) 財務 | 財務について会計監査が適正に行われているか |
| (9) 法令等の遵守 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか |
| (11) 国際交流 | 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員からの助言を受け、卒業後に国家試験を再受験する者への支援体制のより一層の充実に努めた。また、「外部との接触など、現場の声を意識させることが学生の意識を高め、勉強の質が高まる」との助言を踏まえ、職業実践専門課程校として、連携する企業との学生に係る情報の共有の充実に図った。コロナ禍における学びの継続のためにハード面・ソフト面での整備を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|------|------------------|------------------------|-----------|
| 河村和義 | (株)アトリエKー級建築士事務所 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 企業関係者 |
| 櫻井俊二 | (有)IB.DESIN | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 卒業生・企業関係者 |
| 山森鉄雄 | 元、山森鉄雄司法書士事務所 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 企業有識者 |
| 細木 実 | (株)asclair | 令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年) | 卒業生・企業関係者 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

公表時期: 令和3年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|----------------------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | 経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策 |
| (2) 各学科等の教育 | カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路 |
| (3) 教職員 | 各教員の担当科目、教員の専門に関する情報 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | 就職支援等への取組状況、実習等の取組情報 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | 学校行事への取組状況 |
| (6) 学生の生活支援 | 学生支援への取組状況 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | 学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容等 |
| (8) 学校の財務 | 事業報告書、収支計算書 |
| (9) 学校評価 | 自己評価・学校関係者評価の結果 |
| (10) 国際連携の状況 | 留学生の受け入れ・派遣状況 |
| (11) その他 | 学則 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校)

(別紙様式2)

授業科目等の概要

| 文化教養分野専門課程 環境デザイン学科（フラワーデザイン専攻） 令和3年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|------------------|------------------|---------------|--|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | フラワーデザイン基礎演習 | (公社)日本フラワーデザイナー協会 [NFD] のデザイン理論に基づいて、フラワーの技術と知識の基礎を学び、季節の花やグリーンをデザインする | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | コーディネーション基礎 | 植物の特性をよく観察し、アートとして花材の基礎を学びデザインする | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | グリーンコーディネーション | 花材の処理など実践スキルを身につける。テーマに合ったデザインの引き出しを増やす。様々な素材を使用し発想の幅を広げる。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | ディスプレイ演習 I | 花材の特性を学んだうえで、特性を生かしディスプレイ装飾の基本を学ぶ | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | | デザイン基礎 I | デザインの構成要素と組み合わせ方やバランスを考え、デザインの原則を学ぶ。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | DTP基礎演習 | PCの基本操作、illustrator、Photoshopの基本操作を習得し、PCによるデザイン技術の習得を目指す。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 植物学 | 植物の学名や植生など、フローリストとして知っておくべき植物学の基礎的内容について、調査や観察記録をまじえて学ぶ。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | △ | | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | | 色彩 | フラワーデザインに必要な色彩の基礎を学び、色彩士検定3級の取得を目指す。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | △ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | プランニング | PowerPointを用いたプレゼンテーションを学び、グループワークによるイベントプランニングとプレゼンテーションを行う。 | 1後 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 販売実務 | 店舗内における効果的なPOPや広告の基本。その役割を学ぶ。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------|--|----|----|---|---|---|---|---|---|
| ○ | 英語 | アート・デザインの視点で英語を学ぶ。専攻ごとに関連した言語の理解を深める。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | 一般教養 | 社会人としての一般教養、常識、礼儀等を学ぶ。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | | ○ |
| ○ | 前期課題制作 | 日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行い、各種コンテスト(コンペ、公募、アワード)へ出品する。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | フラワーデザイン演習Ⅰ | フラワーの技術と知識の基礎を学び、季節の花やイベントに合わせてデザインする | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | コーディネーションⅠ | 自然素材から着想を得た表現力を培う。アレンジメントの基礎復習から応用技術を学ぶ。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | フローラルアートⅠ | 様々な素材を使用し、フラワーアレンジとフラワーデザインの引き出しを増やす。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | ディスプレイ演習Ⅱ | 設定されたコンセプト、共通テーマを意識して、個人でのデザイン、チームでのデザインと作品制作を行う。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | クリエイティブワークⅠ | 花の植生の基本知識を身につけ、素材を生かすデザインを学ぶ。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | いけばな基礎演習 | 池坊の起源・基礎を学び、色彩、自然との関りを実技にて表現する。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | キャリアプランニング | 社会人として重要な心構え、接遇の基本を学ぶ。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | | ○ |
| ○ | デザイン基礎Ⅱ | illustrator、Photoshopの基本操作を復習し、応用技術を学ぶ。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | DTP演習 | 文字の扱いとバランス、レイアウトが持つ意味を理解させ、意図を感じるものづくりの意識の定着を図る。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | 立体表現 | 様々なアート作品における生花、木材の扱いを知り、作品理解の幅を広げる。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | デッサン | 生花をよく眼察し、正確に美しく描く。花と向き合い、観察力と表現力を養う。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------|--|----|-----|---|--|---|--|---|---|--|---|---|
| ○ | | 後期課題制作 | 日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、後期のまとめとして課題制作を行う。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 進級制作 | 一年間の総まとめとしての成果を問うべく、各自専攻色を生かした課題制作に取り組む。 | 1後 | 180 | 6 | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | フラワーデザイン演習Ⅱ | プリザーブドフラワーやドライ素材を用いて、店舗販売職やディスプレイに役立つアレンジ技能を磨く。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | コーディネーションⅡ | 様々な自然素材から着想を得て、フラワーアレンジに生かす。コンテストやフラワーディスプレイに挑戦する。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | いけばな演習 | 日本の伝統流派を学ぶ。和の作法を知り、古来から続くいけばなの奥深さに触れる。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | スペースデザイン演習 | コンセプト、共通テーマを意識して、個人でのデザイン、チームでのデザインと作品制作を行う。パースの基本を学ぶ。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | クリエイティブワークⅡ | 花の植生の基本知識と素材を生かすデザインを学ぶ。常にトレンドのデザインを意識し、実践する。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | フローラルアートⅡ | 身近にある様々な素材を使用し、フラワーアレンジメントに生かしデザインの引き出しを増やす。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | ブライダルフラワー | ブライダルプランナーの仕事やブライダルフラワーのコーディネーションに触れ、ブライダルフラワーの仕事に関して理解を深める。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | フラワービジネス | 花産業の内容を学び、経営・商品・技術とサービスというビジネスの基本的なしくみを理解する。国家検定フラワー装飾技能検定3級実技対策の内容も含め、フラワーデザインの技能を学ぶ。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 造形演習 | 造形の基本となる構成要素を理解し、空間造形センスと豊かな感性を養う。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | | | | ○ | |
| ○ | | プレゼンテーションⅠ | ドローイングや研究資料をもとに提案書を作る編集技能を身につけ、さらにプレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション能力を高める。 | 2前 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 前期課題制作 | 日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行い、各種コンテスト(コンペ、公募、アワード)へ出品する。 | 2前 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | プレゼンテーションⅡ | 効果的なプレゼンを考え、魅力的なプレゼンテーションボードを制作する。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|------|--|--------|------|----|--------------|---|---|---|---|---|--|
| ○ | | 卒業制作 | 在学中に学んだ専門知識技術などの専攻色を十分に生かして、自らテーマを設定した数週間の長期制作。2年間のメモリアルワークとなる。 | 2 後 | 450 | 15 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | 企業研究 | 北海道内外のフラワー産業の実態を知り、小売店舗のほか、ブライダル業、園芸業など、現況の企業情勢などを研究し就職への目標を定める。 | 2 後 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 業界研究 | 自分の目指す業界、企業の具体的な調査・分析方法を習得し、就職活動に生かす。 | 2 後 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | | ○ | ○ | |
| 合計 | | | | 41 科目 | 2400 | | 単位時間(80 単位) | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|---|--|-----------|-----|
| 学生が教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の課程の修了又は卒業を認定する。卒業必要授業数 2400単位時間 | | 1 学年の学期区分 | 2期 |
| | | 1 学期の授業期間 | 15週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。